

第5章 環境教育

第1節 環境教育および啓発事業の推進	107
1. 環境学習センターの取り組み	107
2. 環境保全課の取り組み	111

第1節 環境教育および啓発事業の推進

1. 環境学習センターの取り組み

四日市市環境学習センターは、平成8年8月1日、子どもから大人までを対象に、日常生活と環境の関わりについての関心と理解を深め、環境に配慮した行動がとれる市民の育成を目的に開館した。市民が自主的に、楽しく環境の学習ができる拠点施設となることを目指して、平成19年度は次のような事業を行った。

1. 普及啓発事業

(1) バスで行く自然体験教室

身近な自然に対する関心を深め、環境保全意識が高まることを目的に、小・中学生とその保護者を対象として3回実施した。

実施日	場 所
6 / 2 (土)	初夏の森の生き物と川のホタル
9 / 29 (土)	天然記念物めぐり
10 / 20 (土)	四日市の里山めぐり

(2) バスで行く環境教室

四日市公害からの教訓や現在の環境対策を学ぶことを目的に、市民を対象にして1回実施した。

実施日	場 所
8 / 16 (土)	四日市公害と工場環境対策

(3) 四日市の身近な自然調べ

小学生が身近な生き物に目を向けることにより、自然とのふれ合いを楽しむとともに、自然への関心を深めてもらうため「探す・採る・調べる」などの自然体験ができる「四日市の身近な自然調べ」を4月から2月にかけて10回実施した。

(4) よんかんセミナー・四日市環境セミナー

小学校高学年から一般市民を対象に大気汚染やゴミリサイクル等をテーマにして講義と実験・観察を組み合わせたセミナーを3回、企業OBの方を講師としてこれまでの環境分野の知識や経験を市民に伝えるセミナーを3回6講座実施した。

(5) 夏休み自由研究相談室

小・中学生を対象に、「夏休み自由研究の仕方相談室」(7月28日(土))、「夏休み自由研究のまとめ方相談室」(8月18日(土))を、植物、昆虫、地学、天文、気象などの分野ごとに、四日市自然保護推進委員会委員等の協力を得て実施した。

(6) 子ども地球環境塾

夏休み期間中（8 / 5 ~ 11）に市内中学生と中国天津開発区の中学生を対象に、環境問題のグローバルな考え方や取り組みについての理解や交流を深めてもらうことを目的に、国際環境技術移転研究センター等において、環境学習を実施した。

(7) エコ工作体験教室

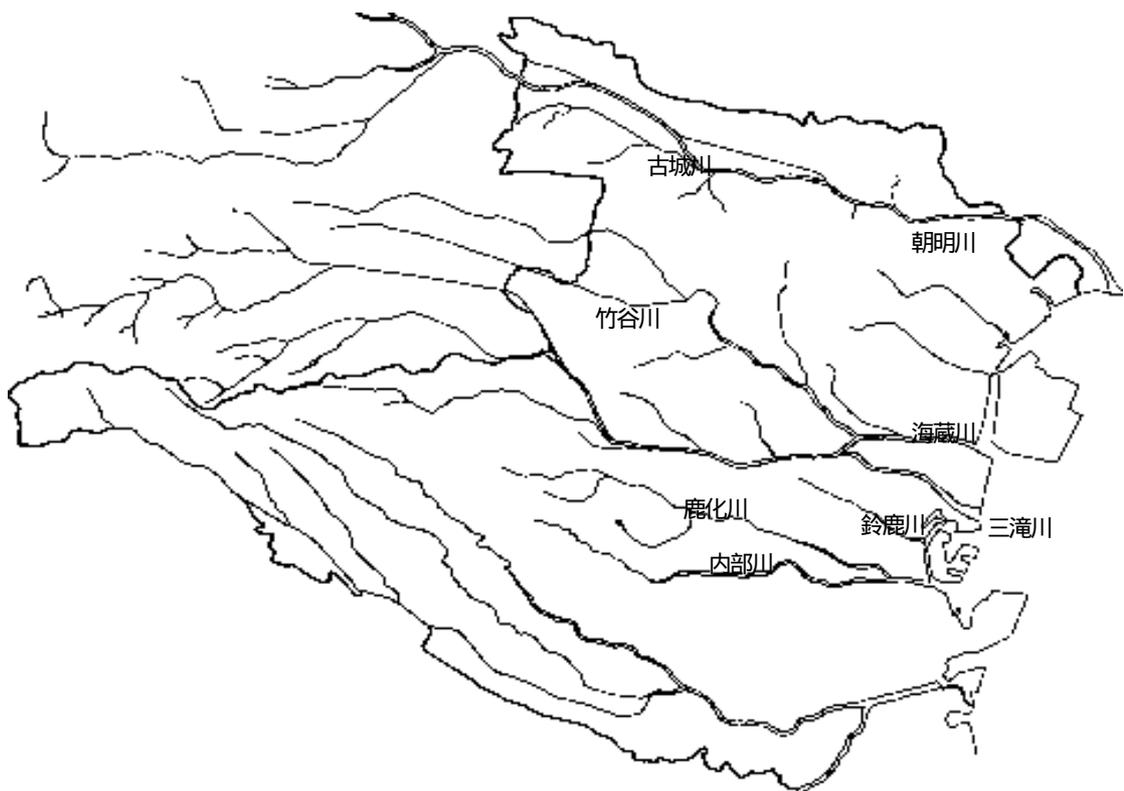
市民を対象に不用になったものに新たな役目を与え、物を大切に省資源・省エネルギーの意識啓発につなげる実習を4回実施した。

開催日	内 容
6 / 23 (土)	荷造りバンド工作
7 / 21 (土)	竹のレインスティック作り
11 / 24 (土)	布ぞうり作り
12 / 22 (土)	しめ縄作り

(8) 水生生物調査

水生生物を調べることによって河川の水質判定を行うとともに、自然環境保護活動の普及・啓発をはかるため、水生生物調査指導員の協力を得て、内部川、鹿化川、朝明川において水生生物調査を 地点で実施した。

水生生物調査結果
・調査地点



調 査 結 果

調査地点番号							
河川名		朝明川	朝明川	朝明川	朝明川	朝明川	内部川 鹿化川
調査地点名		里橋上流	里橋付近	山分橋付近	横手橋上流	横手橋	矢矧橋上流付近 新川島橋上流付近
調査年月日		6月5日	6月5日	6月5日	6月21日	6月21日	7月28日 7月29日
時間		10:00	10:00	10:00	10:00	10:00	10:00
天候		くもり	くもり	くもり	晴れ	晴れ	晴れ
水温()		21.0	21.0	22.0	21.0	21.0	24.5 25.0
川幅(m)		19	19	13	27	27	22 5
採取場所		上流から見て左岸	全体	全体	全体	全体	全体
水深(cm)		17	17	30	30	30	20 20
流速		遅い	普通	遅い	普通	遅い	普通
川底の状態		砂と泥	小石と砂	小石と砂	こぶし大の石	こぶし大の石	こぶし大の石 小石と砂
水のごり		少し感じる	少し感じる	少し感じる	感じない	感じない	感じない
水のおい		少し濁っている	少し濁っている	少し濁っている	きれい	きれい	少し濁っている きれい
指 標 生 物 の 出 現 状	きれいな水	1	アミカ				
		2	ウズムシ				
		3	カワゲラ				
		4	サワガニ				
		5	ナガレトビケラ				
		6	ヒラタカゲロウ				
		7	ブユ				
		8	ヘビトンボ				
		9	ヤマトビケラ				
	少し きたない水	10	イシマキガイ				
		11	オオシマトビケラ				
		12	カワニナ				
		13	ゲンジボタル				
		14	コオニヤンマ				
		15	コガタシマトビケラ				
		16	スジエビ				
		17	ヒラタドROMシ				
	きたない水	18	ヤマトシジミ				
		19	イソコツムシ				
		20	タイコウチ				
		21	タニシ				
		22	ニホンドロソコエビ				
		23	ヒル				
		24	ミズカマキリ				
	大変 きたない水	25	ミズムシ				
		26	アメリカザリガニ				
		27	エラミミズ				
		28	サカマキガイ				
		29	セスジユスリカ				
		30	チョウバエ				
水質階級の判定							

注： は出現した生物。 はそのうち数が多かった上位から2番目まで。

2. 人材育成事業

地域における市民の自主的な環境学習、環境保全活動のリーダーとして活躍できる人材の発掘と育成を目的として「環境リーダー養成講座」基礎編・応用編および三泗小中学校教員を対象とした教員編を開催した。

また、これまでの講座修了生を対象にスキルアップ研修会を7回開催した。

環境リーダー養成講座（基礎編）

実施日	内 容
7 / 14 (土)	公害判決から35年(講義) 四日市の自然について(講義)
8 / 25 (土)	暮らしと3R(講義) 地球環境問題(講義)
9 / 15 (土)	高山市清見町「ブナ林の自然観察」 郡上市八幡町「暮らしと水環境」

環境リーダー養成講座（応用編）

実施日	内 容
10 / 20 (土)	地球温暖化時代に生きる(講義) 身近な省エネ省資源(グループ討議)
11 / 10 (土)	環境保全団体の活動状況の紹介 2団体 シミュレーションディベート
12 / 1 (土)	地域での環境保全活動の仕方(講義) 環境活動プログラムの作成
1 / 12 (土)	体験型環境学習について(講義) 環境活動のまとめ

環境リーダー養成講座（教員編）

（自然環境）

実施日	内 容
7 / 25 (水)	自然体験型環境教育(講義)
7 / 26 (木)	あいち海上の森(体験研修)

（生活環境）

実施日	内 容
8 / 1 (水)	学校での環境教育(講義)
8 / 2 (木)	資源リサイクル・エネルギー施設(視察研修)

環境リーダースキルアップ

実施日	内 容
9 / 22 (土)	地球温暖化防止技術 持続型の構築
10 / 13 (土)	豊田フォレスト「ビオトープの作成と管理」 視察 豊田市自然観察の森 視察

11 / 17 (土)	ネットワーキングが作る環境社会 (講義) インタープリテーションとその利用 (講義)
12 / 15 (土)	環境リーダーの役割 (講義) 環境NPOの立ち上げと運営について (講義)

環境リーダースキルアップ

実施日	内 容
1 / 19 (土)	エコ工作講師養成 布ぞうり作り
1 / 26 (土)	エコ工作講師養成 荷造りバンド工作
2 / 9 (土)	エコ工作講師養成 竹笛工作

3. 交流・活動支援事業

(1) こどもエコクラブ支援事業

市内の117クラブの1,026人が登録した。また、交流会も兼ねて11月11日に「エコまつり」を開催した。

4. 情報提供事業

(1) 環境情報誌『エコステージ第12号』の発行

環境リーダー養成講座受講修了生の有志による編集委員会によって企画、編集された環境情報誌を発行した。

(2) 『よんかんだより』の発行

隔月発行し、センター事業の紹介、募集や環境学習センターのPRに努めた。

5. その他

「総合的な学習の時間」等に対する支援事業

小・中学校・大学や各地区からの要請を受けて、環境に関する野外体験学習やエコ工作、公害学習を行った。

2. 環境保全課の取り組み

1. 環境月間行事

(1) 「四日市のかんきょう」の作成

四日市の公害の歴史や現状について正しく知り、考えるための手引書として、平成

13年度までA4版16ページの小冊子を作成していたが、ホームページに掲載している。

(2) 「広報よっかいち」への特集ページの掲載

「広報よっかいち」6月上旬号に、「みんなで止めよう温暖化の特集」を掲載し、温室効果ガスを少なくする暮らしへの転換を周知した。また、太陽光発電システム設置費補助についての募集等の周知を行なった。